

あまこうの先輩に
フォーカスをあてる
「Chase Your Dream」
あまこうからの「ソノサキ」
で見た景色を後輩たちへ

“好き”だからこそ続けてこれた “好き”を続ける強い気持ち

「好きなことを仕事に」
世の中を見渡してどれだけの人
が自分の「好き」を仕事にできている
だろうか。高校生という多感な時期
は、まだ考えも定まらず、いろいろな
ものに気が移りやすい時期である。
それでいいと思う。高校時代にいろ
いろなものに触れて、「自分らしさ」
自分自身の「好き」をとことん探し
てほしい。

島崎さんは高校卒業後、自衛隊に
入隊。自分の本意ではない進路選択
だったこともあり、自分の本当にや
りたいことは何なのかを考えること
が多かったという。自衛隊での生活
は自分の「好き」とかけ離れていた。
その当時の生活は心が窮屈だったと
振り返る。

2年間の任期を終え、選んだのは
大好きなアパレルの世界。経験も知
識もまったくなかったが、「好き」なこ
とを仕事にしたいという思いで原宿
にある大好きなブランドに飛び込ん
だ。そこで、7年間必死に勉強した。

道のりは山あり谷あり
27歳で自身の思いを詰めこんだ
ブランド「devadurga」を立ち上
げた。奄美の伝統工芸である「泥染
め」の技法を施した商品が主軸であ
り、今も変わらぬコンセプトで走り
続けている。思いの詰まったブランド
も最初からうまくいったわけではな
い。立ち上げた当初の生活は、1日の
平均睡眠時間は、2時間。午前10時
から19時まで本業の仕事をして、
帰宅後食事と少し仮眠をとり、23時
から翌朝8時まで配送ドライバーの
仕事をする生活を5年間続けた。こ
の期間の生活を夜の副業で支えてい
たので、本業を軌道に乗せるために
は「やめる」という選択は一切なか
ったという。振り返れば漆黒のライフ
スタイルだが、「好き」を続ける強い
気持ちで、島崎さんの背中を押し続
けた。

今が1番楽しい！
東京でスタートした憧れの仕事だ
ったが、ふるさと「奄美大島」での生
活がブランドのルーツということも
あり、32歳で念願の奄美大島に戻り
現在の店舗でもある「グナクリブ」を
オープンした。

「今が1番楽しい」と島崎さんは
楽しいそうに話す。その姿が印象的
で、その表情を見ているこちらもワ
クワクワしてきた。



住用町出身。奄美高校卒業後は、自衛隊に入隊。2年間任期後は、夢のアパレル業界へ。そこから幾多の試練や数多くの挑戦で得た経験と変わらぬ故郷への思いを胸に自身のブランド「devadurga」を立ち上げる。
現在は、名瀬伊津部町で「GUNACRIB」のデザイナーとして活躍中。店内には、奄美大島の楽しむためのアウドグッズやギアが取り揃えられている。

後輩たちへ

島を出てから、故郷の「海が青いこと、山の緑が濃いこと」に初めて気づく。1度飛び出ないと「奄美大島」の本当の良さは、知ることができない。高校時代で自分の「好き」が何なのか、自分を探してほしい。「好き」を仕事にして生きていくためにも、「今できることをがむしゃらに貫いてほしい」。何が「正解」なのかなんて、親にも先生にも、友達にもわからない。高校時代の甘酸っぱい思い出さえもこれからの人生の糧になる瞬間があるかもしれない。

今は踏み出せなかったり、「めんどくさい」とか、「だるい」とか思うことが多いかもしれないけれど、その中でも、「今、自分としっかりと向き合って、自分の『好き』を見つけること」を一生懸命やってほしい！応援しています！

